

Cattleya labiata

「カトレア ラビアタ」



▲元気よく育ち開花する株

デジャネイロ近郊のオルガン山脈が原産地で、他の植物のパッキング材料としてイギリスへ渡ってきた、と紹介されてきましたが、実は全く事実とは異なることが近年わかってきました。

イギリスで花が咲き始めると、その頃のオーキッドハンターがつつつとオルガン山脈近郊を訪れ、この美しい花を探し出そうとしたのですが、なんと70年間以上も失われた花となり見つけることが出来なかったそうです。これには諸説ありますが、最初の発見者がすばらしい花であったために産地を一般に知らせなかったためであるとか、同じ発見者が翌年にリオデジャネイロからもイギリスへ植物を送ったため、どちらから来た荷物に入っていた植物が分からなくなったとの説もあります。



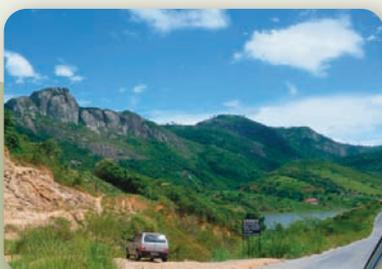
▲二番花と思われるつぼみと
その奥にはふくらみ始めた子房

今回は3月下旬、原産地でのシーズン末期でしたが幸いにも花を見ることが出来ました。

現地はまずともかく暑い!しかも日射しがものすごく強い!でも日中は日本の真夏と同じくらい暑くなるのですが、夕方からずっと涼しくなります。カトレア栽培の基本、昼は暑く夜涼しく、が自然の中でうまくできているのです。ラビアタの原産地は標高が700m~1200m位、今回もこの標高の範囲で見ることが出来ました。いつも原産地を訪れて思うことですが、森林さえ残れば蘭はいくらでも増えるということです。森林があれば種子が飛び、あちこちで芽吹きが見られます。山火事があっても数年たてばまた蘭は生えてきます。木が焼けてしまっても?と思われるでしょう。大丈夫しっかり岩の上に生えてくるんです。今回見たラビアタも昔から残る巨木に着生していたり、周囲がまだ森林だらけの奥地へ行けば行くほど、木や岩の上にまだまだたくさん生えています。しかも現地のガイドに案内してもらうと、まあ良く見つけるなと感心するほど遠くの花まで見つけ出します。よくよく聞けば18年ぐらい前まではオーキッドハンターだったとか。さすがです。もちろん今では採取が禁止ですから別の仕事に就いているようですが、その目は衰えていませんでした。

これまでブラジル各地で訪れたカトレアの原産地は、比較的町に近いところや、牧場に開拓されたところが多く、

▼この岩山の向こうにラビアタが!



カトレアの住む場所がなくなっているのが手に取るように分かったのですが、ラビアタの生えるここペルナンブコ奥地の豊かな森林は、まだまだ大丈夫かなと思わせる大自然の大地でした。

(江尻宗一)

ラビアタは、1817年6月にブラジルのペルナンブコからイギリスへ送られた熱帯植物の中から、翌年の1818年11月にウィリアム・カトレイのもとで開花を始め、その後一大センセーションを巻き起こした花です。

カトレイに雇われた若き植物学者リンドレイが1821年にカトレア・ラビアタと命名し、初めてカトレア(Cattleya)という属名が生まれました。

この花は、長らくリオ

▼ 広大な大自然が残るペルナンブコの大地

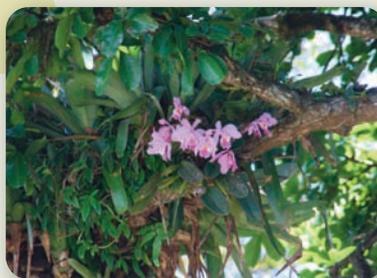


デジャネイロからイギリスへ渡ってきた、と紹介されてきましたが、実は全く事実とは異なることが近年わかってきました。イギリスで花が咲き始めると、その頃のオーキッドハンターがつつつとオルガン山脈近郊を訪れ、この美しい花を探し出そうとしたのですが、なんと70年間以上も失われた花となり見つけることが出来なかったそうです。これには諸説ありますが、最初の発見者がすばらしい花であったために産地を一般に知らせなかったためであるとか、同じ発見者が翌年にリオデジャネイロからもイギリスへ植物を送ったため、どちらから来た荷物に入っていた植物が分からなくなったとの説もあります。いずれにしても「パッキング材料」の話は1893年にイギリスで出版された本に掲載され、その後あたかも事実であるかのように世界に広まってしまったようです。

さて今回は、そのいわくつきラビアタの原産地です。もちろん目指すはブラジル北東部のペルナンブコ州です。あまり日本では知られていない地域ですが、ここにはレシフェという大都市もあり、サンパウロから空路3時間ほどで着きます。レシフェから真西に向かってBR232号線を1時間半ほど走り、グラバータという標高500mほどの小さな町を拠点に周囲の原産地4ヶ所の散策を行いました。

ラビアタは長らく訪れたかったカトレア原産地の一つですが、なんとと言ってもその開花期が問題でした。現地での開花最盛期は2月。日本では洋ラン展の最盛期です。とてもブラジルまで行く時間などありません。ところが3月でも花は少ないがまだ見ることが出来るという話と、ブラジル政府の原産地訪問許可も出たとの情報がきたので、もう何はともあれ行くしかありません。今

▼ 見上げるほどの巨木に着生して開花する大株



▼ 非常に珍しい色彩の花



▲ 鞘が割れこれから種子が周囲に飛び散ろうとしている



▲ 新しい芽吹き。おそらく芽が出て2年目くらいの子苗